

平成28年度 加茂市特別活動部 活動報告

部長 有本 美和子

1 研究主題 「望ましい集団の育成を目指した支援の在り方」

2 研究の概要

- 特別活動における「望ましい集団の育成を目指した支援の在り方」について、講師から学ぶ。
- 講義内容をもとに、各自が実践を行う。

3 研究の実際

今年度も部員の要望により、講師を招いて特別活動における「望ましい集団の育成を目指した支援の在り方」について学ぶこととした。昨年度に引き続き、講師に新潟大学教育学部附属新潟小学校 海津 健太先生から講義をいただいた。

(1) 期 日 平成28年8月26日(金) 9:00～11:00

(2) 会 場 加茂市市役所 会議室301

(3) 内 容 講演・ワークショップ「望ましい集団の育成を目指した支援の在り方」
講 師 新潟大学教育学部附属新潟小学校 教諭 海津 健太 様

(4) 参加者 特別活動部 部員 17名

(5) 講演会の内容

①自己紹介とアイスブレイク

- ・ 自他理解を促す。

②日本の子どもの現状

- ・ 「自分自身に満足している」と感じている子どもが4割程度。(内閣府「子供白書」より)
- ・ 子どもの自身の「エネルギーの低下」を防がなくてはならない。

→子どもが自分自身に自信をもつだけでなく、他者の個性も認め、生かし、伸ばし合っていけるような集団こそが、望ましい集団。

③「望ましい集団」を育む視点

- ・ 「伝統的な荒れ」と「新しい荒れ」
→伝統的な荒れ・・・管理反発型(過度な管理)、馴れ合い型(過度な迎合)
新しい荒れ・・・しらけ型(児童の意欲低下)、保護者発信型(保護者批判)
過度な甘え型(過干渉)
- ・ 荒れへ「個人的予防」「個人的治療」「組織的予防」「組織的治療」の視点から取り組んでいく必要がある。しかし、「組織的予防」「組織的治療」の取組が少ない。

④自治力を高める「学級力」(附属新潟式学級力)

- ・ 学校全体が同じ指標で、各学級の様子をとらえることができる。
→学級経営に対する組織的な取り組みができる。
→課題の早期発見ができる。
→様々な解決法の提案ができる。
- ・ R P D C A サイクルで定期的に見直しを行う。



4 成果と課題

研修会において、実際の学級経営に生かすことができる講演内容をお聞きすることができた。実際の場面に生かすことができる具体的な指導や資料をいただいた。また、具体的な場面を想定し参加者で演習を行ったことは、指導の在り方や学級経営について、各自が研修を深めることができた。研修をとおして、改めて特別活動の重要性を理解することができた。

さらに、昨年の研修会に参加された方々は、個々の実践を踏まえて悩んでいることや疑問に感じていることを質問できたことで、今後の実践に役立てようと意欲が高まった。

この研修を踏まえ、部員の実践を持ち寄って協議したり指導を受けたりすることにより、さらに研修を深めていくことが望ましいと考える。